




「英会話の日～English Festa～」

学 校 名 富里市立富里南中学校

実施日時	令和7年 7 月 16 日(水) 9時 00分 ～ 12時 00分
実施学年	第 3 学年
活 動 の 様 子	<p>1. Today's Goal 英語で伝えた！私の修学旅行</p> <p>2. 活動内容 今回の「英会話の日」では、生徒たちが修学旅行の思い出を英語で伝えることを目的に、ALT との実践的なやりとりを経験しました。各クラスを 6 グループに分け、それぞれにゲストティーチャーズが 1 名ずつ加わりました。活動の流れは以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none">● アイスブレイク:「進化ゲーム」で英語を使いながら楽しく体を動かす。● グループ内でゲストティーチャーズとの簡単な自己紹介・質問タイム。 (例:Where are you from?)など● 生徒が順番に、修学旅行の思い出を英語でスピーチ。● ALT からの質問に答えるなど、スクリプトに頼らない自然なやりとりにも挑戦。 <p>3. 成果 英語を「使って伝える」実体験を通じて、多くの生徒が通じた喜びや達成感を味わうことができた。緊張しながらも、自分の言葉でゲストティーチャーズに伝えようとする姿勢が随所に見られた。また、修学旅行の記憶を英語で再構築する過程が、振り返りの深化にもつながった。</p> <p>4. 課題 ゲストティーチャーズの話すスピードや多様な質問に戸惑う生徒も見られ、日常的なやりとり練習の必要性を感じた。また、暗記だけでなく臨機応変な対応やリアクション力を高める活動の導入が今後の課題である。今回の経験を一過性にせず、2 学期以降もテーマを変えて英語で「伝える」場を継続的に設けていきたい。</p>  

「英会話の日～English Festa～」

学 校 名 富里市立富里南中学校

実施日時	令和7年 12 月 12 日(水) 9時 35分 ～ 12時 10分
実施学年	第 2 学年
活 動 の 様 子	<p>1. Today's Goal 比較級・最上級の表現を用いて、日本に関する事柄を英語で紹介し、相手とのやり取りを通して表現する力を育成する。</p> <p>2. 活動内容 生徒はゲストティーチャーと小グループに分かれ、比較級・最上級を用いた英会話活動に取り組んだ。 日本に関する内容(河川、建物、食べ物など)について、「Tone River is the longest in Japan.」などの既習表現を用いながら紹介を行った。 紹介の際にはタブレット端末を活用し、写真やスライドを提示することで視覚的にも内容を伝える活動とした。 また、日本の事例を紹介した後には、ゲストティーチャーの国について質問する時間を設け、相互にやり取りを行った。</p> <p>3. 成果 写真を提示しながら説明することで、比較級・最上級の文構造を意識しながら発話に取り組む様子が見られた。 相手の国について質問する場面を設定したことで、双方向のやり取りを経験する機会となり、文法事項を実際のコミュニケーションの中で活用する活動となった。</p> <p>4. 課題 準備した内容については発話できる生徒が多かったが、即時的な応答や追加の説明には難しさが見られた。今後は、比較級・最上級と関連付けながら語彙を広げるとともに、簡単な質疑応答を継続的に行い、やり取りの力を高めていく必要がある。</p> 

実施日時	令和8年 2 月 25 日(水) 9時 35分 ～ 12時 10分
実施学年	第 1 学年
活 動 の 様 子	<p>1. Today's Goal 「There is」 / 「There are」 / 「There are no」 の表現を用いて、県内にあるもの・ないものについて英語で伝え、相手とのやり取りを通して表現する力を育成する。</p> <p>2. 活動内容 ウォーミングアップとして、生徒はゲストティーチャーと小グループに分かれ、「be going to」や「will」を用いて春休みの予定について英語で伝える活動を行った。簡単なあいさつや自己紹介の後、「I'm going to ～」「I will ～」などの既習表現を用いて、身近な内容について会話を行った。 その後、メイン活動として、自分たちが選んだ県内にあるもの・ないものについて、「There is」 / 「There are」 / 「There are no」を用いてプレゼンテーションを行った。写真を提示しながら説明し、その後、ゲストティーチャーとの簡単な質疑応答を行った。</p> <p>3. 成果 事前に練習した表現を活用することで、多くの生徒が英語で自分の予定を伝えることができた。写真を用いたプレゼンテーションを通して、既習表現を実際の場面で使用する経験につながったと考えられる。</p> <p>4. 課題 準備した内容については発話できる生徒が多かったが、質問への即時的な応答には難しさが見られた。今後は、短いやり取りの活動を継続的に行い、基本表現の定着を図っていく必要がある。</p> <div data-bbox="359 1668 874 2027"></div> <div data-bbox="917 1668 1420 2016"></div>